

【蹄管理特別プログラム 2026】

【はじめに】

ウィスコンシン大学のドルテ・ドーファ先生が来てくださり、3月20日から3月23日にかけて、蹄管理特別プログラム2026が帯広、別海、酪農学園大学で行われました。参加された方は蹄管理について良い刺激になったのではないのでしょうか？

そこで今回は別海プラザホール及び酪農学園大学で行われた講演の一部、個人的に興味深かったものを簡単に紹介します。

【別海プラザホール講演】

初産牛の蹄角質疾患がその後の蹄病に及ぼす影響 及びリスク因子解析

株式会社ノースベッツ中村聡志

概要

初産時に蹄角質疾患（蹄底潰瘍や白帯病）に罹患した牛は、2産時以降に蹄角質疾患になりやすいかどうか、また初産時に蹄角質疾患に罹患した牛の娘牛は初産時に蹄角質疾患になりやすいのか？

結論

初産時に蹄角質疾患に罹患した牛は、罹患していない牛と比べて2産時での蹄角質疾患に罹患する割合は有意に高く、2.5倍であった。3産以上では、罹患リスク上昇の傾向はあるものの、有意差は認められなかった。また、初産時に蹄角質疾患に罹患した母牛の娘牛は、罹患していない母牛の娘牛と比べて蹄角質疾患になるリスクが有意に高く、1.7倍であった。3産以上では環境要因（牛床コンフォート、通路摩耗、栄養管理など）の影響がより大きく関与している可能性が示唆された。

私見

この研究は 2014 年から 2025 年までの削蹄記録を利用して行われています。削蹄記録を取り、保存していたことに驚きました。多くの農場で定期削蹄が行われています。記録を残していく削蹄師も多いと

感じます。私も蹄病治療の記録を取り始めました。記録を取ることで、病変ごとのベストな治療法、治療のしやすさ、再診が必要か否か、または再診のタイミング等の基準が自分の中に確立してきたように思います。記録することで気づけることもあります。

まずは削蹄記録を見ることから始めてみてはどうでしょうか？

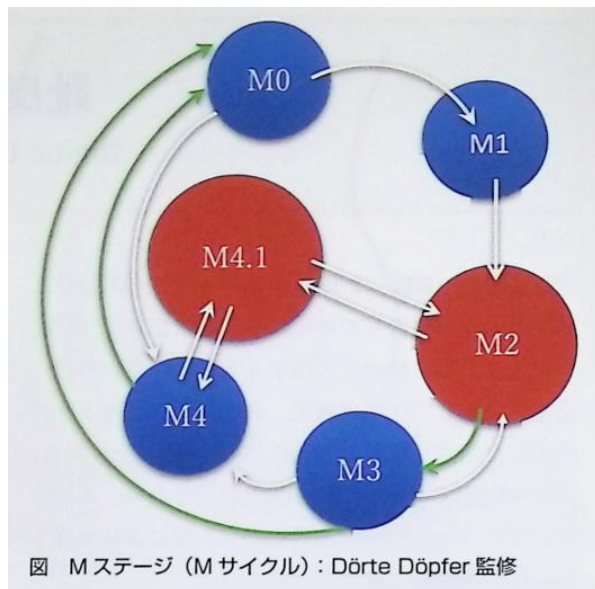
【酪農学園大学講演】

趾皮膚炎（DD）の病態発生、組織像、予防、管理

Dorte Dopfer

概要

正常な細胞がどのように皮膚を形づくっているか、そして DD (トレポネーマ) に感染すると何が生じるか。



主要症状を基礎にした牛の臨床3より



図は DD 感染をステージ分けした M ステージです。
分類は以下の通りです。

M0：正常

M1：2 cm> の潰瘍病変（無～軽度症状）

M2：≧2 cmの急性の潰瘍病変（強い疼痛、激しく
排菌）

M3：黒い痂皮で覆われる

M4：慢性病変 表皮の肥厚と有毛イボ

M4.1：再発病変（強い疼痛）



写真1 ヒゲ状の皮膚増殖を伴った DD 病変 (M4.1-P)

主要症状を基礎にした牛の臨床3より

適切な処置を施せば治癒しますが、図の M2、M4、M4.1 に相互矢印があるように繰り返すことも珍しくありません。

写真のような M4 有毛イボのように、なぜ外観が大きく変化するのでしょうか

DD の原因であるトレポネーマが皮膚内に侵入すると、それが刺激になり皮膚の増殖速度が上昇します。その結果、増殖性病変へとなるのです。

M2 病変は激しく排菌しています。この状態である個体が多く、蹄浴に課題がある（蹄浴頻度又は、薬液の交換頻度が不十分等）と、蹄浴自体が感染源になる可能性があります。

私見

DD が多い農場と、DD がほとんど発生しない農場とがある理由が明確に理解できました。理解できた上で、DD を減らすには、個体治療と蹄浴を根気良く続けていく必要があると考えています。

【終わりに】

今回は蹄管理特別プログラム 2026 で行った別海、江別での農場視察についてお伝えします。

富田



Total Herd Management Service